

# 日本リザルツの仲間たち



## 東京らぼ～る(離婚と親子の相談室)



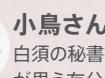
### 嶋貴さん(相談員)

「子どもを連れて離婚を考える時は、養育計画合意書を作成してから離婚するのが常識」というように社会の認識を変えたいです。

### 大川さん(カウンセラー)

親の離婚を経験する子どもの苦悩に寄り添い、ご夫婦の子どもファースト離婚への後押しができるよう頑張ります。

## 東京



### 小鳥さん

白須の秘書です。霞が関の魔法使い、どーが思う存分威力を發揮できるよう、24時間365日コンビニのようにお仕えしております。

### 門井さん

経理の分野でNGOで働く人のお役にたたいと思い、NGOで働いています。NGOにもっと寄付を!

### 久保内さん

政策を実現させるリザルツ独特のプロセスが魅力?だと思います。  
また、感染症から心のケアに関する事業にも取り組んでいます。

みんな集まって  
らっしゃーい♥



代表白須(霞が関在住?)

### 代表白須(霞が関在住?)

霞が関在住?

## 釜石



### 鈴木裕子さん

岩手県釜石市子ども課の委託事業「青葉通り こども相談室」で相談員をしています。様々なストレスを抱えるこどもたちが、少しでも笑顔を取り戻し、希望を持って成長していくような支援を心掛けています。

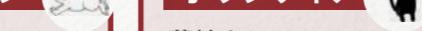
### インターん



### 春日さん

途上国支援に携わりたいと思い、活動しております。スナノミ症に苦しむ人がいなくなるように頑張ります。

### ボランティア



### 藤崎さん

アフリカの人の為に送られた靴の山に感動しながら日々作業をしています。

## ケニアチーム



### 白石さん(日本人スタッフ)



ケニアに来てから約1年「どのようにすればより多くの方々を救うことができるのか」と、常に考えています。本事業を通じて、スタッフ全員成長できるよう頑張ります。



### トミーさん(日本人スタッフ)



6月から入職しケニアでの結核プロジェクトを担当予定です。



### マーさん(日本人スタッフ)



ケニアで何か成果が出せるようがんばります。



### アブタ・オゲト(ケニア・ナイロビ在住)



最貧困層の人々の暮らしをよりよくすることは、人道支援の中でも特に大切なことです。私は、日本リザルツの仕事を元気づけられています。



### チャリティー(ケニア・エスンバ村在住)



ケニアでも最貧困層の人々が住むエスンバ村で活動する看護師です。この村の状態は年々悪化し、援助が必要です。日本リザルツの活動に感謝しています。

## GGG+フォーラム2017開催決定!!



どなたでもご参加いただけます

## はじめて国際会議に参加しました!!

### 日本リザルツインターん・春日桃子からの報告

7月22~25日にワシントンDCで開催されたResults International Conferenceに参加しました。世界中のリザルツメンバー、そして、ドナーの方々が活動の進捗状況や課題について話し合う場で、多くの新しい知識を吸収してきました。



世界銀行ジム・キム総裁

言わずもがなイボンヌ・チャカチャカ氏

リザルツの創設者サム・ディリー・ハリス氏

# vol.10 THE RESULTS NEWS

2017[平成29]年8月

貧困と飢餓をなくすための政策提言を行う国際市民グループ

## 大盛況! 2016年世界栄養報告セミナー

RESULTS  
the power to end poverty



### 日本として一貫性のある政策を作るために

日本は栄養改善の分野において多くの知見があると同時に、これまで大きな貢献をしてきました。しかしながら、特に省庁間での連携は十分でなく、一貫性のある政策として同じ方向に進む段階にはまだ至っていないように感じます。栄養改善を進めるために必要なのが、省庁間、企業、NGO、国際機関が一緒になって取り組む、いわゆるマルチセクターの連携であり、今後も様々な機関が一緒にになって相乗効果を高められるよう、アドボカシー活動を進めていきます。



国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンで栄養アドボカシーを担当する田中沙也加氏に話を伺いました。

### 世界の栄養改善に関する機運の高まり

4月17日、2016年世界栄養報告セミナーが開催され、国会議員、関係省庁、国際機関、大学、企業、NGO等から約220人が参加しました。関係者が一堂に会した場で、栄養政策や進捗状況などを確認し合い、政策面・資金面での支援を訴えました。



### 日本が栄養分野で世界をリード

私たちNGO4団体は国際母子栄養改善議員連盟と連携しながら、国際栄養課題に関する国家戦略案作りに関わりました。2012年ロンドンオリンピックでは、飢餓に苦しむ人々を支援していく方針が当時のキャメロン英国首相により示されました。それを契機に、2016年ブラジル、2020年日本へと、オリンピック開催国に栄養改善をリードするバトンが渡されました。日本が少なくとも1000億円の資金拠出をして栄養改善に貢献することが求められています。

日本が栄養分野で世界をリードする方針が当時のキャメロン英國首相により示されました。それを契機に、2016年ブラジル、2020年日本へと、オリンピック開催国に栄養改善をリードするバトンが渡されました。日本が少なくとも1000億円の資金拠出をして栄養改善に貢献することが求められています。



## 運動靴はどうやってケニアに運ばれるの?

日本リザルツ事務所には、旅はエチオピア航空に、日々運動靴が日本全国から送られてきます。その運動靴を整理するのは、ボランティアスタッフの藤崎百合子氏です(写真上)。そして今回、運動靴2350足が詰まった段ボール75箱は、公明党が手配したトラックで成田空港まで運ばれました。さらに、成田空港からケニアまでの空

## 在日本ケニア大使館&エチオピア航空への感謝状贈呈式

運動靴輸送に協力頂いた在日本ケニア大使館、及びエチオピア航空への感謝の意を示すため、6月21日に感謝状贈呈式を行いました。

逢沢一郎衆議院議員、三原朝彦衆議院議員から、ケニア大使館のマイナ大使、及びエチオピア航空のイエルガ日本支社長に感謝状と花束を渡しました。

運動靴輸送に協力頂いた在日本ケニア大使館、及びエチオピア航空への感謝の意を示すため、6月21日に感謝状贈呈式を行いました。

逢沢一郎衆議院議員、三原朝彦衆議院議員から、ケニア大使館のマイナ大使、及びエチオピア航空のイエルガ日本支社長に感謝状と花束を渡しました。



## 東北便り：子どもたちの声を聞く

震災後、養護教諭として被さいした児童生徒を支援し、現在は学校以外から子どもの支援を続け、青葉通りこどもの相談室のサポーターでもある村上貴美子氏に話を伺いました。

### 子どもたちが今、抱えている思い

一般的に、支援を必要とする児童生徒の数は、震災後3～4年がピークと言われていましたが、被さい地の生徒の中には、依然としてイララ、身体の不調を訴え続ける子どもたちがいます。震災後、水についていた恐怖がゆっくりと溶け出し、寂しさ、悲しみ、そして、その気持ちを分かってくれない周囲への不信感を、怒りや身体の不調として表しているのです。もちろん、震災体験だけが原因ではなく、震災後の家庭環境や生活状況ともないけれど、人との繋がり



釜石応援ふるさと大使のイボンヌ・チャカチャカ氏

関わっています。

### 子どもたちに今、必要なこと

まずは、子どもたちが持つ回復力を信じて、「一歩ずつ前進したい」との希望を引き出すことです。そのためには、養護教諭、教員、スクールカウンセラー、関係機関との連携が課題です。子どもたちは、辛い出来事を忘れる事はできることも大事になります。

## 被さい地の子どもを結べ! くまモン塗り絵展覧会 in 熊本



国内外の被さい地域への支援を行っている日本リザルツは、熊本、釜石、パレスチナ自治区のガザ地区などに住む子どもたちが行った1000枚以上のくまモン塗り絵を、熊本地震から1年が経過した熊本で展示しました。この展覧会をみた熊本の子どもたちが、同じような辛い体験をした国内外の仲間たちの存在を少しでも感じてくれたことを願っています。



## 子どもの貧困解消のために 子どもファースト離婚をめざして

先日、離婚に関するADR面談を行いました。ADRとは、専門の弁護士の立ち合いの下に行われる裁判外紛争解決手続きのことです。裁判や裁判に比べて、短期間に、経済的に、円滑に進めることができます。そして何よりも、お子さんの気持ちを大事にしながら離婚の手続きを進めることができます。今回は、お父さんはお母さんのことを思いやり、お母さんはお父さんを尊重する、そんな優しい空気の中で進められました。「二人で話し合うと言い争いになってしまっては、第三者が入ることでいつもより冷静に話し合うことができました。」「話しが脱線せずに進められて良かったです。」等の感想も頂いています。お子さまがいらして離婚をお考えの方にはぜひ利用いただきたいシステムです。



お問合せはこちらまで  
TEL: 0120-085-125

## 青葉通りこどもの相談室 ホースセラピーに行ってきました!

今日は、いつもご好評いただいている「親子交流会」の取り組みについてご紹介いたします。これまで、「親子交流会」として、「シリコンゴムで作るプレスレット」「調理実習」「ホースセラビティ体験」を実施しました。8月6日には「木工教室」も予定しています。

ホースセラビティ体験では、草やり、ブラッシング、引き馬などして馬と仲良くなり、最後に待ちに待った乗馬というプログラムだったのですが、小さい子から乗馬して、最後の二人（小5女子と小6男子）は雨脚が強まる中での乗馬になってしまいました。濡れてしまったことを謝る私二人は、「濡れたのが（自分たち）大きい子でよかった」「着替え持ってるから大丈夫」と思いやりのある言葉をくれました。

大人も子ども多くの方が今もなお、震災によるストレスやトラウマを抱えて生活されていますが、日本リザルツの活動が親子の絆を再確認し、子どもたちの笑顔と健やかな成長を守り育む一助となれば幸いです。（鈴木裕子）



お問合せはこちらまで  
TEL: 070-2023-2988

## 現地報告 ケニアでの結核啓発活動

日本リザルツは、ケニアで結核予防プロジェクトを行っています。6月27～29日、スラム街の1つカングミ地区の小学校を訪問し、結核に対する啓発活動を行いました。「結核患者はHIVに必ず感染している」、「結核は治らない病気だ」などの誤った知識は未だに一部で根付いています。9000人のケニアカングミ地区の子どもたちに正しい知識を伝えました。



### 地域医療ボランティアの声

私の命を救ってくれたのは、地域医療ボランティアでした。数年前に結核を発症した時、未来が閉ざされたような絶望感に打ちひしがれました。「結核は治らない病気だからすぐに死ぬよ」と言う人もいました。そのような中、「結核は治る病気だから病院に行きなさい」と声をかけてくれたのが地域医療ボランティアでした。この経験こそが私の原動力です。私は身をもって地域医療ボランティアは住民の命を救う大事な仕事だと理解しています。仲間の地域医療ボランティアは、親友であり、同志でもあります。私は以前は

患者でしたが、今はみんなを救うために地域医療ボランティアとして活動しています。この機会を与えてくれた日本リザルツに感謝しています。

## スナノミ症キャンペーンで得たこと

現地報告；スナノミ症元患者の声 - ベンソン・アニマ  
(エスンバ村幼稚園プロジェクトマネージャー)



秋野公造参議院議員によるスナノミ症勉強会

## 世界トイレ大革命が必要です!

現地報告；ケニアの水、衛生、トイレ事情 - エドワード・カハティリ  
(エスンバ地域リーダー)

神がもたらした中で一番素晴らしいのは水です。文明の中心にはいつも水源がありました。ケニアのエスンバ村では、きれいな水を見ることはできません。あるのは、子どもたちが川から汲んできた水か、タンクで貯めた雨水です。そしてトイレは、蓋のないただの穴です。落ちて亡くなった人もいます。汚物にはハエがたかり、そのハエが飛び交う中で私たちは飲食をしています。このような衛生環境は、コレラなどの恐ろしい感染症が蔓延する原因にもなっています。きれいな水、そしてトイレの改善が今必要です。



ユニセフ木村泰政所長による途上国のトイレ事情勉強会

ケニアの農村部では、治療法のないスナノミ症は日常的な問題でした。しかし、日本リザルツのキャンペーンにより、スナノミ症は治る病気だとはじめて知りました。また、靴を履くことで、スナノミ症を予防できることも知りました。送ってくれた靴を見た時、本当に幸せでした。スナノミ症に罹患してからはダンスが踊れず、日々の生活に楽しみを見出せることができませんでした。今はダンスができる喜びに満ちあふれています。エスンバ村の子供たちは、日本から送られた素敵な靴を履いて走り回っています。靴を履いたまま寝ると言い張ることもあります。今、私は天国にいるような気持ちです。



スナノミ Tunga penetrans 成虫 1mm

松井三郎京都大学名誉教授によるエコサントトイレ勉強会



# 報告 エスンバ村に行ってきました!



7月16日、日本リザルツは衆議院議員の山際大志郎先生と南アフリカの歌手イボンヌ・チャカチャカさんとともにスナノミ症抑止に向けたイベントを行いました。ケニアはグローバル・ファンドの享受国です。それにも関わらず、エスンバ村の子どもたちのような最貧困層には、まだまだお金が行き届いていないのが現状です。今回は、結核、マラリアで家族を亡くした女性のお宅を訪問し、お話を伺いました。イボンヌさんは、「すべての人が健やかに笑顔で暮らす社会を目指して欲しい」とメディアに訴えていました。



## スナノミ症の治療を見守りました

ケニアの風土病、スナノミ症の治療を見学しました。山際先生、イボンヌさんも息を飲んで治療風景を見守ります。あまりの光景にイボンヌさんが涙を流す場面も…イベントには多くのメディアも駆けつけました。合計9社の取材を受けました。ケニア2大全国紙であるデイリーネーションと、スタンダードに掲載されました。

The Standard 2017年7月18日付朝刊



The East African (2017年7月15-21日版)

## The East African

MAGAZINE

The EastAfrican JULY 15-21 2017

**Health.** The Japanese Embassy and Results International are running anti TB, HIV/ Aids and jiggers campaigns in Nairobi, Gorrissi, Kisumu, Kakamega and Nairobi counties. In line with this, they have invited Yvonne Chaka Chaka, a popular South African artiste, to popularise their fight from July 16 to 18.

The visit will start in Essumbo village, Emuhaya, Vihiga County. Chaka Chaka is their African ambassador. She will participate in the treatment of the jigger patients as well as talk about TB, HIV/Aids and the need to fight extreme poverty. In her company will be three Japanese MPs, Miura Asashiro, Yamagawa Daishiro and Ogura Momobu, Japanese embassy officials as well as the Results executive director Noriko Shiraszu. The delegation will visit Kangemi Health Centre in Nairobi, where the Japanese Embassy and Results Japan have been financing free

treatment at the facility. They will visit five TB patients in Kibagore, Central and Gichoghi sections of Kangemi and later sign a pact with the Nairobi County health doctor to allow them build a modern TB laboratory.



Daily Nation (2017年7月18日付朝刊)

## DAILY NATION

**Songbird's noble cause**  
South African singer Yvonne Chaka Chaka at Nairobi International Airport on Saturday. She is in Kenya to encourage the government ensure that money from the Global Fund meant for health care is used appropriately.

# 運動靴を届けてきました!

7月17日、衆議院議員小倉将信先生とエスンバ村の小学校を訪問し、スナノミ症患者の治療キャンペーンを視察しました。プロのカメラマン柿木喜久男さんが撮影したたくさんの写真とともににお届けいたします。



心優しい小倉先生。50足近く日本リザルツでは現在、い運動靴と、日本からトランクいっぱいのお菓子を持参され、子どもたちに寄贈して下さいました。

日本リザルツでは現在、3月3日のケニアのスナノミデーを「世界スナノミの日」にすべく、アドボカシー活動をしています!



お菓子のごみはみんなで回収。普段から身の回りをきれいにすることが、感染症抑止につながることを呼びかけました。

## カンゲミ地区訪問

7月18日は、小倉将信先生と一緒に、日本リザルツが実施する結核アドボカシープロジェクトの視察を行いました。まずは、カンゲミヘルスクリニックで、地域医療ボランティアとカンゲミの子どもたちが行っている清掃活動を見学されました。先生は子どもたちからも大人気でした。視察後、「日本のように掃除をする習慣が重要」と仰っているのが印象の方のお話に真剣に耳を傾けました。

ていらっしゃいました。  
その後は、カンゲミ地区の街に出て、地域医療ボランティアとカンゲミの子どもたちが行っている清掃活動を見学されました。先生は子どもたちからも大人気でした。視察後、「日本のように掃除をする習慣が重要」と仰っているのが印象的でした。



先生も治療に参加されました。



あまりの痛さに泣き出す子どもも…



今回は電通さんが運動靴と可愛い手提げかばんを寄贈して下さいました。電通さん有難うございます!



カンゲミ地区を効率的に廻れるよう購入した自転車を前に記念撮影。爽やかです!

カンゲミ地区の結核抑止に向け、日本リザルツは次年度に、より大きな規模のプロジェクトを実施する予定です。